

### 3 事業報告書

## 事業報告書 (令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

#### (1) 令和4年度 事業総括

##### ア 引受(加入)関係

##### (ア) 引受の概要

##### a 引受総括

令和4年度の農業保険事業の計画として、農業共済事業では、総共済金額1兆1,931億円、また委託事業である農業経営収入保険事業では、3,000件の契約目標を掲げ、事業推進にあたった。

新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延も3年が経過し、終息のめどが見えない中で、推進には厳しい環境が続いているが、全役職員一丸となつての取り組みの結果、農業共済事業では、総共済金額1兆1,877億円、達成率99.5%、農業経営収入保険事業では、3,051件、達成率101.7%となった。

農業共済事業では、水稲共済の令和4年産から一筆方式が廃止となり、品質・全相殺方式への移行を重点的に推進した。その結果、品質・全相殺方式の占有率が68.8%となり全国平均(11.6%)を大きく上回った。また、70%以上の加入率をめざし収入保険との並行で復活推進まで行ったが、戸数69.4%、面積75.9%の加入率であった。家畜共済の死亡廃用共済は、育成・肥育牛と豚を中心に新規推進を行い、計画を達成した。なかでも種豚と肉豚は、養豚チーム(生産獣医療センター)と連携した事故除外方式の加入推進を行い、延べ8戸の新規引受を獲得した。疾病傷害共済は、育成・肥育牛を中心に新規農家の推進を行い、頭数は計画を達成したが共済金額については子牛価格低迷等の影響で計画未達成となった。園芸施設共済は、令和2年9月の改正制度施行で補償の充実が図られたことや新たな附帯施設の追加等により実績増となった。戸数加入率は、国が示す80%以上は維持しているが、県内では、60%以下の市町村もあり、全体の底上げが課題である。果樹共済、畑作物共済加入者には引き続き収入保険への移行を積極的に進めた結果、延べ7戸が移行した。任意共済では、農機具共済が、1,052億円の補償額となり計画を達成した。しかし、建物共済では、前年度に続き計画未達成となった。

事業開始5年目を迎えた農業経営収入保険事業は、コロナ禍にあつて収入保険の必要性が高まり、行政等関係団体の協力のもと、全センターで計画を達成した。国の示す全国10万経営体の目標を達成できたのは本県を含め17県、達成率では全国2位となった。

## b 農業共済事業

### (a) 農作物共済

#### 【水稻】

引受面積は8,672haで、前年産から1,278ha減少した。計画対比で89%、前年対比87%となった。これは、新たに184戸が収入保険へ移行したことと、作付面積の減少による。収入保険加入の水稻面積3,275haと合わせると11,947haとなる。また、共済金額は68億5,755万円、計画対比103%、前年対比101%となった。

#### 【麦】

引受面積は52haで、前年産から42ha減少した。計画対比56%、前年対比55%となった。これは、新たに1戸が収入保険へ移行したことによる。また、共済金額は1,006万円、計画対比51%、前年対比51%となった。

### (b) 家畜共済

#### 【死亡廃用共済】

引受頭数は計画対比101%、共済金額は計画対比102%とともに計画達成となった。

頭数については乳用牛、繁殖牛の離農・廃業が進む中、育成・肥育牛を中心に新規推進を行い、計画を達成した。

また養豚チーム（生産獣医療センター）と連携した種豚及び肉豚の事故除外方式の加入推進を行い、種豚で5戸、肉豚で3戸の新規引受を獲得した。

共済金額については、育成・肥育牛での新規引受並びに増頭により、計画を達成した。

#### 【疾病傷害共済】

引受頭数は計画対比103%と計画達成となったが、共済金額は計画対比98%と計画未達成となった。

育成・肥育牛を中心に新規農家の推進を実施し、頭数については計画を達成したが、共済金額については大規模農場を中心に子牛価格低下等の影響を受け、共済金額を引き下げたため、計画未達成となった。

### (c) 果樹共済

#### 【うんしゅうみかん】

引受面積は22.5haで高齢化等による離農により5戸が未継続となったことなどから、2.1ha減少し、計画対比92%、前年対比92%となった。また、共済金額は2,700万円、計画対比95%、前年対比95%となった。

#### 【くり】

引受面積は 86.6ha で高齢化等による離農により 10 戸が未継続となったことなどから 9.3ha 減少し、計画対比 90%、前年対比 90% となった。また、共済金額は 2,783 万円、計画対比 79%、前年対比 79%となった。

#### 【日向夏】

引受面積は 4.4ha で新規加入が 1 戸あったが、高齢化等による離農、新たに 1 戸が収入保険へ移行したことなどから 1.4ha 減少し、計画対比 91%、前年対比 91%となった。また、共済金額は 673 万円、計画対比 98%、前年対比 98%となった。

#### 【ぶどう】

引受面積は 3.5ha で新規加入、未継続ともになく、増減はなかった。計画対比 100%、前年対比 100%となった。また、共済金額は 927 万円、計画対比 86%、前年対比 86%となった。

### (d) 畑作物共済

#### 【大豆】

引受面積は 22ha で、新規加入が 4 戸あったが、ブロックローテーションによる作付面積の減少等により 4 戸減少となった。しかし、昨年より作付けを増やした組合員により全体の作付面積自体は 0.1ha 増加し、計画対比 100.5%、前年対比 100.5%となった。また、共済金額は 338 万円で、計画対比 123.4%、前年対比 123.4%となった。

#### 【茶】

引受面積は 65a で、収入保険移行や廃業により 2.7ha 減少し、計画対比 19.7%、前年対比 19.7%となった。また、共済金額は 15.3 万円で、計画対比 18.7%、前年対比 18.7%となった。

#### 【スイートコーン】

引受面積は 28ha で、新規加入が 4 戸あったが、令和 5 年産に作付や出荷がなくなった等加入資格を満たさなくなった農家が 10 戸、また新たに 3 戸が収入保険へ移行したことにより 2.2ha 減少し、計画対比 92.8%、前年対比 92.8%となった。また、共済金額は 8,994 万円で、計画対比 90.2%、前年対比 90.2%となった。

#### 【ばれいしょ】

引受面積は 20.5ha で、新規加入が 1 戸あったが、ブロックローテーションによる作付面積の減少と新たに 3 戸が収入保険へ移行したことにより 3.4ha 減少し、計画対比 85.9%、前年対比 85.9%となった。また、共済金額は 2,987 万円で、計画対比 83.5%、前年対比 83.5%となった。

#### (e) 園芸施設共済

戸数加入率の平準化、付保割合追加特約加入率 60%への引上げ等の積極的な推進により、共済金額 1,339 億円となり計画対比 106.8%、前年対比 100.8%となった。さらに、170 戸の新規を含め 4,170 戸の加入実績となり 82.6%の戸数加入率となった。また、新たに 92 戸が施設内農作物を収入保険へ移行した。

#### (f) 建物共済

共済金額は、計画金額 8,002 億円に対し 98%の 7,822 億円となり、計画未達成となった。センター別では中部 99%、南那珂 98%、児湯 94%、都城 98%、西諸 99%、北部 99%となっている。前年度実績と比べると火災共済は 164 億円の減少、総合共済は 62 億円の増加となっている。新規で 324 戸、670 棟、約 93 億円増加したものの、未継続が 1,632 戸、2,475 棟、約 263 億円となった。

火災共済から総合共済への切り替えは進んでいるが、農家数の減少や建物の解体、他保険加入等が計画未達成の主な要因である。

#### (g) 農機具共済

共済金額は、計画金額 1,037 億円に対し 101%の 1,052 億円となり、計画達成となった。センター別では中部 105%、南那珂 101%、児湯 105%、都城 100%、西諸 94%、北部 102%となっている。前年度実績と比べると、火災共済は 11 億円の減少、総合共済は 38 億円の増加となっている。

農機具の入替確認の徹底及び農家訪問等の新規推進が計画達成の要因となった。

#### (h) 保管中農産物補償共済

加入対象品目が共済事業目的に限定されており、加入品目は全て米であった。Aタイプが 1 口・100 万円減少となった。加入戸数 11 戸、加入口数 27 口、共済金額 2,700 万円となり、計画より 1 口足りず未達成となった。

### c 農業経営収入保険事業

全国農業共済組合連合会からの委託事業で事業開始から 5 年目。例年通り全職員による全戸訪問を徹底。新型コロナウイルス感染症の影響や自治体による保険料補助、既加入者からの宣伝効果もあり事業計画 3,000 件を上回る 3,051 件の引受（加入）実績となった。

## イ 被害（事故）関係

### （ア）被害（事故）の概要

#### a 被害（事故）総括

農業共済事業の令和4年度共済金支払総額は、約84億円で、前年度の約56億円に対し150%となっている。

令和4年9月18日の台風14号による影響で、普通水稻では、河川が氾濫し、土砂流入や埋没、冠水等が発生した。また、大豆、うんしゅうみかんでも圃場の冠水や傷果や落果が発生した。園芸施設では、県内で加入者の約4割の組合員、建物では約2,400棟が罹災した。

家畜では死傷事故で、事故頭数は肉豚の事故減少の影響で減少したが、共済金は繁殖雌牛、育成肥育牛で事故が増加したため増加した。病傷事故は、件数、共済金ともにやや減少した。

農業経営収入保険事業では、令和4年度は令和2年加入の2,412件に対し、つなぎ融資を171件、約5億3,000万円、保険金は、1,078件、約24億1,900万円の支払いとなった。長引くコロナ禍にあり加入者の約4割が保険金の支払対象となっている。令和3年加入に対しては、保険金算定中ではあるが、令和5年5月26日時点で2,793件に対し、つなぎ融資を145件、約4億8,900万円、保険金については、1,087件、約20億2,200万円の支払いとなっている。農業共済事業と農業経営収入保険事業を合わせた、農業保険事業総額の支払いは、過去最高の約104億円となる見込みである。

#### b 農業共済事業

##### （a）農作物共済

###### 【水稻】

早期水稻においては、収穫期の8月にイノシシ、シカによる食害（獣害）が発生した。一部地域でイモチ病（病害）が発生、さらに、セジロウンカ及びカメムシ、スクミリンゴガイの発生（虫害）もあった。

普通期水稻においては、令和4年9月の台風14号により県内の主要河川が氾濫し、土砂流入や埋没、冠水等が発生した。また、出穂期8月以降の気温が平年を大きく上回り、高温障害による心白粒等の登熟不良が発生、収穫期にイノシシ、シカによる食害（獣害）が発生し、減収となった圃場があった。以上のことから、支払共済金は、1億6,173万円となった（前年対比239%）。

###### 【麦】

排水不良の水田圃場での根腐れ（土壌湿潤害）が発生、収穫期の令和4年5月上旬からの降雨により倒伏が発生した。一部地域ではカラス等による食害（鳥害）も発生した。以上のことから、支払共済金は、27万2,478円となった（前年対比88%）。

## (b) 家畜共済

### 【死産事故】

頭数は、4万3,499頭（前年対比92%）、支払共済金は、27億2,374万円（同103%）であった。頭数は大幅に減少しているが（3,555頭の減）、ほとんどが肉豚の減少分（4,451頭の減）で、繁殖雌牛（222頭の増）、育成・肥育牛（875頭の増）は大幅に増加した。肉用牛の事故の増加は、大規模・中規模農場における労働力や飼料不足といった飼養管理の影響で、母牛や出生子牛の栄養状態悪化によるものが主な要因と考えられる。

### 【病傷事故】

件数は、20万998件（前年対比98%）、支払共済金は、19億5,065万円（同98%）であった。前年と比較して件数、共済金ともにやや前年を下回った。肉用子牛で呼吸器病を中心に若干増加したが、肉用成牛で腸炎、呼吸器病が減少したため、前年を下回った。

## (c) 果樹共済

### 【うんしゅうみかん】

令和4年8月上旬から下旬にかけて高温かつ少雨だった影響で日焼け果が大量に発生し、さらに9月上旬から中旬にかけて降水量が急激に増えたため裂果も大量に発生した。また、台風14号の影響により、傷果や落果が発生し、一部園地ではサル、イノシシ、シカ、虫による被害も発生した。以上のことから、支払共済金は406万1,400円となった（前年対比317%）。

### 【くり】

令和4年9月18日に襲来した台風14号の風により枝折れや落穂の被害が発生した。また、6月中旬から9月中旬にかけての多雨と高温の影響により実炭疽病も発生し、一部園地ではサルやイノシシによる食害や虫による被害も発生した。以上のことから、支払共済金は、293万9,403円となった（前年対比38%）。

### 【日向夏】

令和3年12月及び令和4年2月の低温によりす上がり果が発生した。また、令和3年8月上旬及び9月中旬の大雨により黒点病が発生した。一部の園地において、ヒヨドリによる食害が発生した。以上のことから、支払共済金は、73万6,934円となった（前年対比34%）。

### 【ぶどう】

令和4年5月中旬から下旬及び6月中旬の平年を上回る降雨により灰色カビ病が発生した。また、台風14号の影響により晩腐病や褐斑病が蔓延し、土砂の流亡等の被害が発生した。一部園地ではイノシシやイタチによる食害も発生した。以上のことから支払共済金は、117万7,320円となった（前年対比70%）。

## (d) 畑作物共済

### 【大豆】

都城地区で台風 14 号の影響により冠水した圃場や倒伏した圃場が散見された。その影響により、多くの圃場が生育不良となったり不稔となった。中には冠水後に生育が停止した圃場もみられ、ここ数年では一番大きな減収となった。以上のことから、支払共済金は、101 万 1,176 円となった（前年対比 513%）。

### 【茶】

4 月に入ってから気候変動が激しく生育に影響を及ぼした。中・晩生品種は早生品種に生育が追いつく状況であったが、降雨等の影響で摘み取りが遅れる圃場が散見された。また、一部圃場で炭疽病の多発生がみられ、減収となった。以上のことから、支払共済金は、4 万 4,984 円となった（前年度共済金支払なし）。

### 【スイートコーン】

児湯地区で大きな被害となった。発芽後の低温により凍霜害が発生し、一部圃場で発芽不良や生育不良がみられたほか、4 月下旬の突風による倒伏、出穂期にあたる 4 月下旬から 5 月上旬にかけての降雨が原因と思われる授粉不良、その後肥大成長期の日照不足により肥大不足がみられ、減収となった。以上のことから、支払共済金は 470 万 5,017 円となった（前年対比 72.5%）。

### 【ばれいしょ】

植え付け後の低温により萌芽遅れや萌芽のばらつきがみられ、その影響で十分な肥大生长期間を確保することができず全体的にいても重量が小さい傾向であった。また、収穫後期に断続的に雨が降ったことにより、植え付けが遅かった圃場では腐敗果の発生がみられた。一部圃場では夏疫病も発生し、減収となった。以上のことから、支払共済金は、256 万 8,257 円となった（前年対比 87.9%）。

## (e) 園芸施設共済

台風 14 号により県内で加入者の約 4 割の組合員が罹災した。この被害では、令和 5 年 3 月末時点で 1,735 戸、3,098 棟に対し 15 億 5,800 万円の支払共済金となっている。病虫害については、321 棟に対し 1 億 485 万円の支払共済金となった。特に、キュウリ黄化えそ病が 95 棟と内作被害の 4 割を占めた。以上のことから、県全体での支払共済金は、17 億 5,766 万円となった（前年対比 687.7%）。

## (f) 建物共済

支払共済金は 13 億 3,200 万円（総合共済 10 億 1,386 万円、火災共済 3 億 1,814 万円）となり、前年より 9 億 2,075 万円の増加となった。風水害等については、前年より 2,319 棟の増加となり、8 億 5,000 万円の支払増となった。火災については前年より 11

棟の増加となり、7,500万円の支払増となった。全焼事故は18棟、2億1,640万円、自然災害による全損は4棟1,780万円の支払であった。落雷については120棟減少し、400万円減少した。なお、令和4年9月18日に発生した台風14号については、令和5年4月30日現在、1,902戸、2,423棟、9億600万円の支払いとなっている。

#### (g) 農機具共済

事故台数は延1,048台で、支払共済金4億7,134万円(総合共済4億7,042万円、火災共済92万円)となり、前年に比べ事故台数は149台増加し、支払共済金は2億657万円増加した。

事故原因別にみると、最も多かった共済事故は接触で487台、次に異物の巻き込みが238台、次いで風水害が109台となっている。

#### (h) 保管中農産物補償共済

対象となる事故は発生しなかった。

### c 農業経営収入保険事業

令和2年度引受分については、1,078件に24億1,935万円の支払い。令和3年度引受分については、令和5年5月26日現在の保険金算定進捗率96.2%で1,087件に20億2,219万円の支払いとなっている。

要因としては、台風14号の自然災害や病虫害、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う価格低下が多くを占め、本人のケガや病气も支払いの対象に含まれた。